

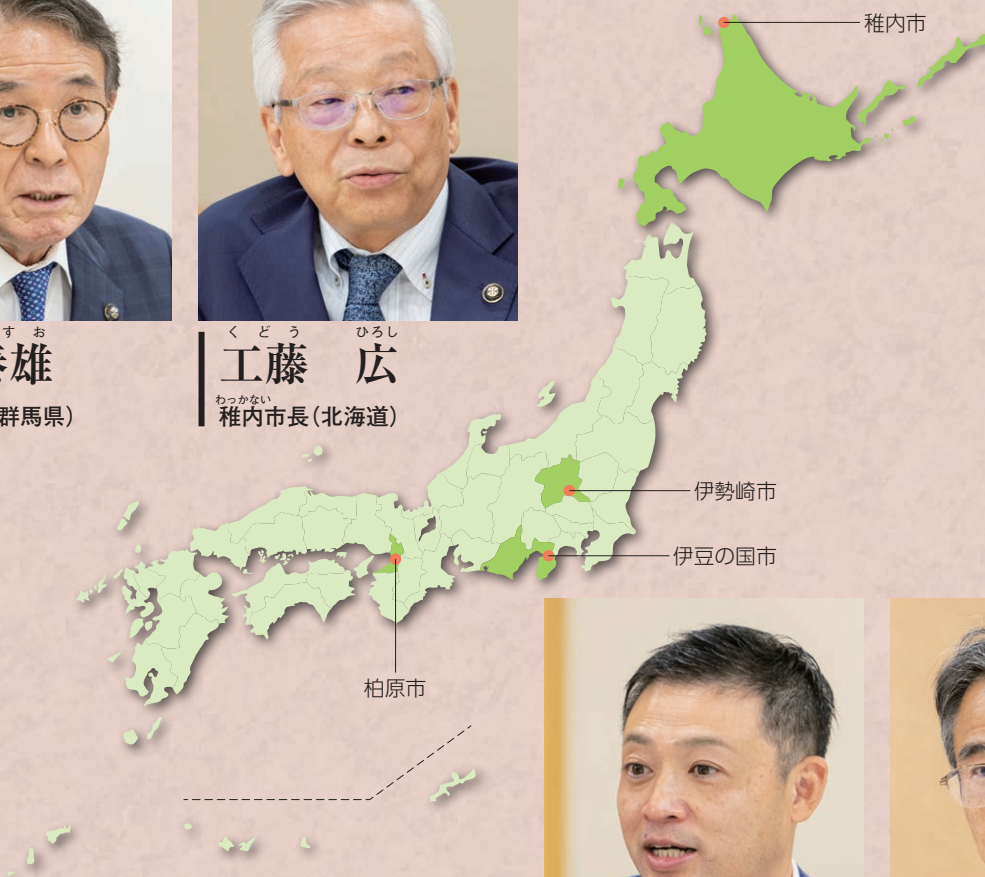
# 近代レンガ遺産を活用したまちづくり



ひじ やすお  
**臂 泰雄**  
いせさき  
伊勢崎市長(群馬県)



くどう ひろし  
**工藤 広**  
わっかない  
稚内市長(北海道)



ふけ まさひろ  
**富宅 正浩**  
かしわら  
柏原市長(大阪府)



やました まさゆき  
**山下 正行**  
いずくに  
伊豆の国市長(静岡県)

司会・コーディネーター

ほそかわ たまお  
**細川 珠生**

政治ジャーナリスト

幕末から昭和初期にかけて、駅舎や橋梁、公共施設、土木施設、地域産業の発展の基礎となった各種工場など、さまざまな建造物にレンガが使用され、日本の近代化に貢献しました。現在、そうしたレンガ建造物が残る地域では、次代に引き継ぐために保存・保全の取り組みを進めているほか、地域に人を呼び込む観光資源、交流施設としても幅広く活用されています。このような取り組みにより、地域経済の活性化、シビックプライドの醸成など、さまざまな効果が表れています。

座談会では、近代レンガ遺産の保存・活用を進める工藤・稚内市長、臂・伊勢崎市長、山下・伊豆の国市長、富宅・柏原市長にお集まりいただき、それぞれの近代レンガ遺産の特徴、保存・活用に向けた各種施策、市民や行政の取り組みなどについて語っていただきました。

(本文中の役職名・敬称は一部省略しています)

## 近代化の歩みを物語るレンガ遺産

細川 日本は近代に入ると、レンガ造りの建造物が各地に盛んにつくられるようになりまし  
た。それでは、各都市にはどのようなレンガ建  
造物が残っているのか、その特徴も含めてお話  
してください。

工藤 日本最北端に位置する稚内市は、宗谷海  
峡を挟んで対岸にサハリンを望む国境のまちで

戦争遺産である  
「稚内赤れんが通信所」の  
保存を進めながら、国境の  
まちとして、市民と共に平和  
の大切さを発信していきます。



工藤 広  
稚内市長(北海道)

す。地政学上、極めて重要な地域であることか  
ら、昭和初期には旧海軍の通信施設として、大  
小3棟のレンガ建造物で構成される「旧海軍大湊  
通信隊稚内分遣隊幕別送信所」(通称・稚内赤れ  
んが通信所)が整備されました。真珠湾攻撃を命  
じた暗号電文「ニイタカヤマノボレ一二〇八」も、  
ここから艦船に中継打電されたと伝えられてい  
ます。

戦後は、昭和30年代半ばまでアメリカ軍が駐  
屯し、通信施設として使われた後、昭和58年に  
国の所管となりました。周囲を雑木林に囲まれ  
ていたこともあり、その存在を知らない市民も  
多くいましたが、平成14年から実施した市の調  
査で歴史的に価値が高い建物が残っていること  
が明らかになりました。その建物は、長年にわ  
たり、強風や大雪にさらされてきたため、屋根  
は崩落し、壁面に亀裂が走るなど、老朽化が著  
しく進行していましたが、市民の間から「貴重  
な歴史的建造物を残したい」という声が自然と  
湧き上がり、平成19年には、市が国からその建  
物と土地を取得し、市民団体「稚内市歴史・ま  
ち研究会」による施設管理が始まりました。同  
会の尽力により、現在でも2棟の修復保存や、  
桜の木の植樹をはじめとした周辺の環境整備が  
進められています。

臂 古くから養蚕が盛んだった伊勢崎市は、江  
戸時代から織物のまちとして発展しました。特  
に大正から昭和初期にかけては、当時の女性の  
7人に1人が伊勢崎銘仙を着用したともいわれ  
るほど、銘仙の一大産地として全国に名をはせ  
ました。平成26年に世界遺産に登録された「富  
岡製糸場と絹産業遺産群」の構成資産にも、地  
元の養蚕農家・蚕種製造業者で、「清涼育」と呼

ばれる蚕の飼育法を大成した田島弥平の旧宅が  
入っています。

市内には銘仙の生産を支えたレンガ造りの建  
造物も点在しており、代表的なものとしては、  
当時の工女が寄宿舎から製糸所への往来で使用  
していたとされる「徳江製糸場レンガトンネ  
ル」、伊勢崎出身の薬種商の寄付で建てられた  
「旧時報鐘楼」、生糸や織物の輸送のために開業  
した両毛鉄道(現・JR両毛線)のレンガ橋梁な  
どがあります。

また、大正8年に繭の倉庫として建設された  
「境赤レンガ倉庫」は、市民の交流、地域活性化  
のための施設として、市がリノベーション再生  
を行いました。イベントホールやギャラリーと  
して多くの市民が利用しており、地域のにぎわ



市民有志の手で保存修理が行われている「稚内赤れんが通信所」(稚内市)

レンガ遺産が保存されているからこそ  
市民もまちの繁栄の歴史や  
戦争の惨禍をよく理解できると  
思います。



臂 泰雄  
伊勢崎市長(群馬県)

い創出につながっています。

山下 日本が列強諸国の脅威にさらされた幕末期、葦山代官江川英龍ひでたうはさまざまな海防政策を幕府に建議し、品川沖の台場(砲台)に据える大砲を鑄造するための溶解炉として、「葦山反射炉」の築造を手がけることになりました。築造に当たって江川が頼りにしたのは、オランダ語で書かれた書籍のみ。事業は困難を極めました。が、着工から3年半の歳月をかけて、安政4(1857)年に完成しました。実際に稼働した

反射炉としては現存する唯一のもので、大正11年に国の史跡に指定されたほか、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産にも登録されています。

国内における最初期のレンガ造り建造物で、千数百度の高温にも耐える約2万6000個もの耐火レンガが用いられています。過去に幾度か大規模な保存修理が行われてきましたが、直近では令和2年10月から約1年間かけて、保存修理工事が実施されました。また、世界遺産の登録を機に、「葦山反射炉ガイダンスセンター」も整備され、多くの観光客が訪れるようになるなど、国や関係機関と連携しながら保存・活用の取り組みを一体的に推進しています。

富宅 大阪と奈良を結ぶ古代の官道「龍田古道」たつたこうどうの道中には、「亀の瀬」と呼ばれる要所があります。柏原市から奈良県三郷町さんこうちょうにまたがる地域で、約4年以上前から地滑りが繰り返されてきた難所です。令和2年に日本遺産「龍田古道・亀の瀬」に認定されましたが、その構成文化財の一つに、明治25年に建造された、レンガ造りのトンネル「旧大阪鉄道亀瀬隧道」(通称・亀の瀬トンネル)があります。昭和6年〜7年に発生した大規模な地滑りで崩壊したと考えられていましたが、平成20年に国土交通省が対策工事を進める中で、その一部区間が地中から偶然、発見されました。今では地域の歴史的財産として、予約制で一般公開されています。

幻のトンネルとして、鉄道ファンから大いに注目されましたが、柏原市では、さらに魅力を高め、地域活性化につなげようと、約40mにわたるトンネル内の空間に、48台のプロジェクトを設置して、迫力ある音と映像で演出する「亀の



改修工事を終え、地域のにぎわい創出の場へと変貌を遂げた「境赤レンガ倉庫」(伊勢崎市)

瀬トンネル内プロジェクト「トンネル内プロジェクト」を本年1月から始めました。トンネル内のプロジェクト「トンネル内プロジェクト」は国内でも例がなく、多くの人々が訪れる人気スポットとなっています。

### 地域振興をはじめ幅広く活用

細川 近代レンガ遺産は災害や戦争を含め、まちの歴史を如実に物語る貴重な資源であることがよく分かりました。地域振興をはじめ、幅広い活用が期待できると思いますが、いかがでしょうか。

富宅 亀の瀬は古来、都の西の玄関口として交通・経済・治水を支えてきた要衝地です。この要衝地を守るためにわが国は長い歳月と巨額の費用、そして最新技術を結集させて対策工事を



江川英龍の海防に向けた熱意、知識欲、異文化に対する探究心こそ子どもたちに学んでもらいたいですね。

山下 正行  
伊豆の国市長(静岡県)

続けてきました。まさに日本の土木技術の粋を集めた、災害対応の歴史を垣間見ることができ資源です。2年後には大阪・関西万博が開催されます。先に申し上げたように、柏原市ではプロジェクトマネジメントの取り組みをスタートさせたところですが、インフラツーリズムが注目される中で、地域を代表する観光資源としてより磨きをかけていきたいと考えています。

工藤 稚内赤れんが通信所は、平和を考える上で大切な戦争遺産です。建物を管理する「稚内

市歴史・まち研究会」では、二度と悲惨な戦争が起きないよう、平成23年から真珠湾攻撃が行われた12月8日に、約80基の灯籠に明かりをともす「平和の灯」事業を行い、平和を祈念しています。

国際情勢の変化が著しい昨今ですが、国境のまち・稚内市として、こうした取り組みを通じ、市民と共に平和の大切さを広く発信・共有していきたいと考えています。

臂 伊勢崎市は昭和20年8月14日から15日にかけて、日本で最後の空襲があったとされるまちです。市内には当時の傷痕を伝えるレンガ建造物も残っており、空襲レンガモニュメントとして保存されています。このようなレンガ遺産がしっかりと目に見える形で保存されているからこそ、市民もまちの繁栄の歴史や、戦争の惨禍の実態をよく理解できると思います。

中には、土地区画整理事業に伴い、レンガ建造物の移転・除去が必要になる場合もありますが、所有される民間企業のご理解により、建物全てを取り壊すことなく、その一部を移築保存する取り組みが進められています。

山下 ご紹介した通り、葦山反射炉の建造は大変な難事業でした。何しろ、江川英龍に十分な知識が備わっていたわけではありません。オンライン語の書籍を頼りに、反射炉の設計に懸命に取り組みしました。残念ながら、英龍自身は完成を見ることなく亡くなりましたが、その子英敏が後を引き継ぎました。

私は、日本を諸外国から守りたいという江川英龍の熱意や知識欲、さらに異文化に対する探究心も、後世に引き継ぐべき大事な遺産だと考えています。ぜひ、こうした江川英龍の心意気

を市内の子どもたちに学んでもらいたいですね。

### レンガ遺産を核にした市民活動が活発に

細川 地域の近代レンガ遺産に対して、市民はどのように受け止めていらっしゃいますか。

富宅 地域内の資源や風物は日常的に触れる機会が多いため、「あつて当たり前」のものとして、特別視する市民は少ないと思います。しかし、外部から高い評価を受けると、市民もその価値を再認識していきます。実際、柏原市でも、日本遺産の認定を受けたことで、市民もその重要性を理解し、地域への誇りを感じるようになっていきました。その意味でも、さまざまな地域資源を積極的に外に向かって効果的に発信することは極めて重要だと感じています。



伊豆の国市のシンボル「葦山反射炉」。ガイドによる解説・案内も充実(伊豆の国市)

## トンネル内にプロジェクターを設置し、迫力ある音と映像で演出するプロジェクションマッピングを始めました。



富宅 正浩  
柏原市長(大阪府)

山下 伊豆の国市でも世界遺産の構成資産となったのをきっかけに、まちのシンボルである葦山反射炉をこれまで以上に大事にしたいとの認識が市内に広まりました。事実、登録後には、市内で活動していた「歴史ガイドの会」が中心となり、来訪者に対する解説や案内が常時行われるようになりましたし、地元の建設業協会には、ボランティアとして葦山反射炉周辺の草刈りや清掃を担っていただいています。また、市民団体「葦山反射炉を愛する会」も新たに組織され、

清掃活動にとどまらず、講演会や講座の開催、葦山反射炉にちなんだ短歌や俳句の作品募集など、多様な活動を展開しています。

工藤 赤れんが通信所の存在が明らかになり、市民団体が施設管理を行うようになると、市民有志の皆さんが自らの手で崩れたレンガを一つ一つ積み直すなど、保存修理が活発に行われるようになりました。当初は廃虚と見まがうような外観でしたが、地域と共にこの場所で時間を刻んできたレンガ建造物の姿に、歴史の重みを感じたのだらうと思います。

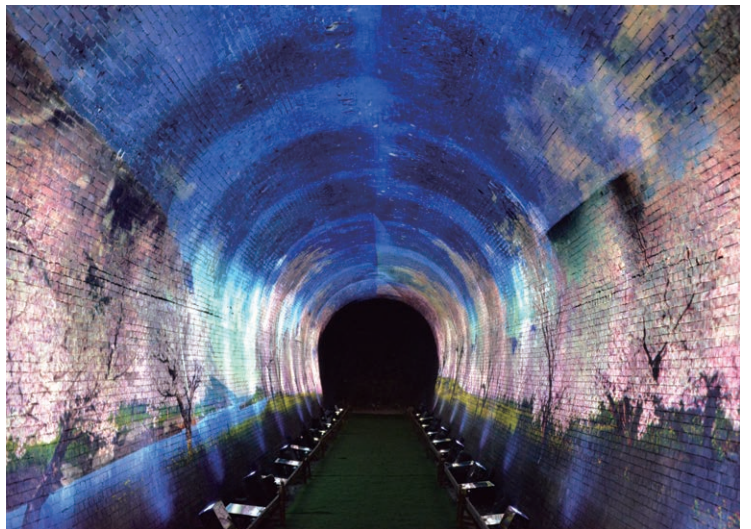
臂 伊勢崎市では市民との協働により「市景観サポーター実行委員会」が設立され、市内に点在するレンガ遺産のマップの作成、動画の制作などの取り組みが行われるようになりました。また、「伊勢崎空襲を語り継ぐ会」という団体では戦争体験者からの聞き取り、市内の小学校での出前授業なども熱心に行っています。

### 行政が果たすべき役割

細川 市民が活発に活動されている中で、行政はどのような役割を担っていますか。

富宅 行政主導では、活動は長続きしません。柏原市でも、ガイドの会など市民団体が活発に活動しています。行政はこうした団体をバックアップするなど、間接支援に努めることが大事だと考えています。

山下 レンガは時間が経過するにつれて劣化が進むため、長期間放置するわけにはいきません。その意味でも、モニタリングと保存修理は行政の大事な役割です。しかも、葦山反射炉が世界遺産の構成資産に登録されたことで、できる限りオリジナルのレンガを生かしながら、必要最



亀の瀬トンネル内で実施されているプロジェクションマッピングの様子(柏原市)

小限の修理を行うという方針が、ますます重要視されるようになりました。その観点から、令和2年度から3年度にかけて行われた保存修理工事では、煙突外部のレンガを全て撮影するなどして劣化の進み具合を細かく調査し、基準以上の劣化が確認された場合にはレンガを差し替えたり、しっくいを充填したりするなど、丁寧に作業を進めました。

加えて、市民や観光客への啓発も重要です。伊豆の国市では、世界遺産に登録された7月8日を「反射炉の日」と位置付け、葦山反射炉入場者への記念グッズの配布や、金属鑄造の仕組みを知ることができる「鑄物作り教室」などを実施しています。

工藤 赤れんが通信所に関する保存修理や環境



細川 珠生  
政治ジャーナリスト

整備の活動は、クラウドファンディングや地元からの寄付などを基に、あくまで市民が主体的に行ってきた。私はそこに意義があると思っと思っています。もちろん、行政が必要な予算を投じて、主導的に事業を進めることはできません。市民が主体的に活動するからこそ、地域への愛着や誇りが生まれるし、外部からも高く評価されるのだと思います。事実、この取り組みは国土交通省の「平成30年手づくり郷土賞」の受賞をはじめ、各県庁からも注目されています。そのようなか、稚内市では、修復された2棟を市の有形文化財に指定するなど、あくまでも黒子として、側面から支援を行っています。

臂 市内には、さまざまな市民団体が活動していますが、それぞれ目的も活動内容も異なります。市としては、広報分野でのサポートとして、それぞれの団体の活動を広く周知する取り組みを進めています。また、今後は、それぞれの団体がつながる場を積極的につくり、各団体の取り組みをマッチングさせながら、活動の継続を図っていききたいと考えています。来年度は「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界遺産に登録され

て10周年、合併から20周年を迎えます。本市と同様に世界遺産の構成資産を持つ富岡市や、利根川を介して隣接する埼玉県深谷市・本庄市とも連携しながら、市民団体が広く参画・連携できるような新たなイベントを開催したいですね。

山下 伊豆の国市でも、令和7年は合併から20周年、葦山反射炉の世界遺産登録から10周年を迎えます。市としても、新たなイベントの開催を考えているところです。同時に、これからも市民団体に活動を継続してもらいたいと考えていますが、この点において、大きな課題となっているのが、活動団体の高齢化です。

富宅 私もその点を最も心配しています。若者たちの中には、地域の祭りに熱心に参加するなど、地元意識の高い人たちも大勢います。そうした若者たちの力も取り込みながら、活動の継続を図っていききたいですね。

工藤 市民団体の高齢化は、どの地域においても避けて通れない問題です。稚内市では、市内の大学生に協力してもらいながら、「稚内市歴史・まち研究会」のこれまでの活動や関係者の証言などをまとめた映像作品の制作に取り組みました。若者たちに赤れんが通信所に関する活動をすぐに引き継いでもらうことは難しいでしょうが、幅広い市民の参加促進が図られるよう、行政としても支援していききたいです。

富宅 柏原市でも市内の大学と連携して、学生にまちづくりへの参画を促していますが、私が最も期待しているのは、彼らの発信力です。SNSをうまく使いこなして、効果的に情報発信しています。ぜひその力をまちづくりの分野でも発揮してもらいたいですね。

同時に、本日の座談会を機に、レンガ造りの



建造物が残る都市同士で連携を深め、情報共有なども進められればありがたいです。

臂 確かに単独の市だけではできないこともたくさんあります。同じ思いを持った都市が連携し、レンガサミットのようなものを開催できればよいですね。

細川 近代レンガ遺産は実際に目で見て、触れることができる歴史資源です。かつてのまちの繁栄、地域の先人の歩み、戦争の記憶など、今の時代を生きる私たちに、さまざまなことを教えてくれます。これからも、地域の誇りである近代レンガ遺産の保存・活用に向けて、市民と共に取り組まれることを願っています。本日はありがとうございました。

(令和5年7月12日、全国都市会館にて開催)  
本コーナーは隔月掲載となります。次回は1月号に掲載予定です。